

Unit 2 未来を語る表現

ここでは未来を表す表現の代表例として以下を取り上げます。

be doing

be going to do

will do

will be doing

be planning to do / be scheduled to do / be supposed to do

推測の余地のない確定したことは現在単純形

まず、Tomorrow is Sunday. (明日は日曜日だ) だとか The next stop is Shinagawa. (次の停車は品川です) のように、推測の余地がない確定した事柄だと現在単純形を使います。

今まさに準備中は現在進行形

be doingの現在進行形は「予定が決まっており、それに向かって今まさに準備をしている」という場合に、He's leaving for Bangkok tomorrow afternoon. (彼は明日午後、バンコクに出発することになっている) のように用います。

will と be going to

will と be going to は同じように使われることがありますが、「形が違えば意味が違う」が英語を学ぶ際の基本です。電話が鳴っていて「(私が) とるよ」だと I'll get it. です。ところが、この状況で I'm going to get it. とはまずいいません。will と be going to の違いを以下に示します。

まず、will です。上の I'll get it. はまさに現在の「意志」です。結婚のプロポーズで Will you marry me? と問いますが、発話時において、相手の結婚する意志を問うています。この場合は、約束としての意志です。自分の意志は表明できるし、相手の意志は問うことができます。

しかし、第三者の意志は推量するしかありません。そこに She will be back to the office by three. (彼女は3時までには帰ってくるでしょう) のように「推量」の用法が生まれます。推量の余地がないときは、Tomorrow is Sunday. や The next stop is Shinagawa. のようにwillは使いません。

一方、be going to は「ある行為に向かって進んでいる状態にある」ということから「～する予定になっている」「～するつもりでいる」「(今まさに) ～しそうである」という状況で使います。

妊娠した女性に言及して、「この9月には出産だ」という状況では、She's going to have a baby this September. となります。「出産という行為に向かって進行中」ということです。車に乗っていて何かにぶつかりそうという状況を想像しましょう。ここでも、We're going to crash. といいます。We will crash. だと「ぶつかってやる」といった感じになってしまいます。車が衝突しそうな現場を目撃している人が They're going to crash. といえば「(もう)ぶつかりそうだ」だし、They will crash. だと「(この分だと)ぶつかるだろう」となります。

「～することになるだろう」を表す will be doing

will be doing は「～することになるだろう」の意味になります。意味的には、be going to do に近いのですが、be going to do を用いて、Are you going to come to the conference? というと「会議に来る予定ですか?」という意味ですが、will be doing を用いて、Will you be coming to the conference? というと、「会議に来られることになりそうですか」と丁寧な表現になり、意味合いが違ってきます。

その他

be going to do 以外にも、未来のことを表現するのに、be planning to do (～することを計画している)、be supposed to do (～する手はずになっている)、be scheduled to do (～する予定になっている) などがあります。